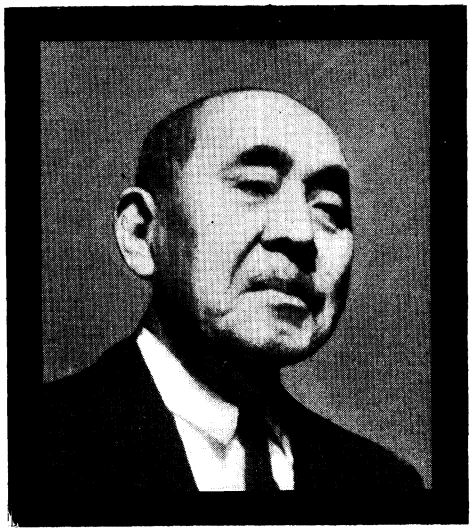
故 名誉員 松島寛三郎君 略歴



松島寛三郎君は明治8年(1875) 4月1日広島県比婆郡口北村に生れ，志を立て，13才にして単身京都に出て同志社中学に入学，ついで東京第一高等中学校（前 第一高等学校）を経て京都帝大第一期生として明治33年同工学部を卒業，同年10月山陽鉄道会社（現国鉄神戸～下関間）に入り，38年2月工務課長となり，明治39年12月鉄道国有＊法により同社が国営になり，鉄道作業局湊町保線事務所長に昇進，ついで北海道鉄道管理局工務課長を経て名古屋鉄道管理局工務課長となり，大正9年故長谷川謹介氏の懇請をうけ，その知遇に感じて，目前の恩給を捨てて官を辞し，東海道鉄道株式会社（現名古屋鉄道）に入り，同社の発展に寄与し，のち大正11年新京阪鉄道株式会社の設立に参加してその取締役技師長兼支配人となり，社長太田光凞氏の副社長格として社務一切を統裁，その建設経営を一手に引きうけ，関西最初の地下鉄を京都市内に新設するとともに，当時国内第一と云われた豪華高速線を完成，今日の私鉄の水準を作り上げた。昭和5年同社が京阪電鉄と合併するや常務取締役となり，建設直後の苦難の経営を担当し，また傍系諸会社の役員を兼務するとともに，他方，同志社，大阪医科大学，大阪歯科大学，関西医科大学等の理事に就任，教学の普及，私学の振興につとめ寧日なき活躍であつたが，大陸の暗雲濃い昭和15年後進に譲り退職した。

この間関西における斯界の大先輩として本学会関西支部設立に参画するとともにその第7期(昭和9年度）支部長として学会の運営発展に尽力した。

本会は同君の多年にわたる功績と人格を称え，昭和26年本学会の名誉員に推挙した。

君は生来きわめて頑健な体質で，その性格とともに大西郷を偲ばせるものがあつたが，引退閑居しての晴耕雨読の生活も戦中戦後の諸難関に処したためか，昨30年初夏から疾患を得てついに立たず，令息と愛婿との両医師に見守られて31年4月22日満81年の生涯を閉ぢられた。

君は寡黙豪胆にして洒脱，しかも篤い温情の性格をもつて部下を愛し，よく後進を導き，鉄道建設に当つてはその真価を発輝し，多くの功績を残し，広く交通技術に貢献するところ多大である。

本学会は君の葬儀に当り霊前に香華を供え弔詞を捧呈したが，ここに重ねて哀悼の意を表する次第である。